

塩川高敏展で講演会開催

上原 昇（2組）

9月13日から佐久市立近代美術館で開催中の故・塩川高敏君（8組）の回顧展では、会期中イベントして、10月18日（土）の午後、同館視聴覚室にて講演会が行われ、筆者も参加してきました。

講師は尾道市立大学美術学科教授の小野環さん（73年函館生まれ、96年東京藝大油画卒、98年同大修士）です。はるばる尾道から駆けつけてきてくれた小野さんは大学教授とは思えない若々しく軽やかな感じの人でした。



定員50人分用意した席はほぼ満席で、ところどころで旧交を温めるやりとりが聞こえてきました。後から聞いたところでは、聴衆の多くは塩川君の予備校講師時代の生徒、岩村田の小中学校の同級生、そして奥様を始め親族の皆さんとのことです。因みに塩川夫人も予備校時代の教え子とのことです。高校の同級生、青松英和君（8組、小諸在住）も来館していました。

講演は小野さんと塩川君との邂逅、高校2年時に美術学校予備校で先生と生徒の関係から始まりました。尾道大学での塩川君が亡くなるまで30年近い付き合いがあったとのことです。

講演は『画家・教育者 塩川高敏—水と空気・理想と現実のはざままで』と題するテーマで進められました。前半では、塩川君の画家としての作風や制作姿勢について、学生時代—予備校講師時代—尾道時代—晩年と時代を追いながら丁寧に解説してくれました。

後半は教育者としての塩川君の横顔や思い出を感慨深げに語りました。

予備校時代、生徒たちに「いい形で（美大受験に）落ちろ」、「急ぐな」と言っていたそうですが、生徒たちは「先生は現役で藝大に合格しているくせに・・・」と文句を言っていました。不思議と説得力があったとのことです。

小野さんは、今回の回顧展にあたり発行した図録（展覧会パンフ）の中で、講演会と同じタイトルで長文の論評を掲載していますが、「読んだぞ！」と塩川君が夢の中に出てきたとのことで、それを聞いて、聴衆席は一瞬ざわめきました。

講演終了後の質疑応答の時間では、質問というより、予備校時代の生徒さんや幼友達から思い出話が披露され、和やかな雰囲気での講演会となりました。

天国の塩川君もきっと「聞いたぞ！」と喜んでいてくれることでしょう。

なお、回顧展は11月3日（月・祝）まで開催されています。

当館担当学芸員の由井はる奈さんは、「塩川先生の回顧展を鑑賞した人の声は大変好評です」と話していました。



尾道大学時代の塩川高
敏君
画像は尾道市立大学提
供

MOU 尾道市美大学美術館での ギャラリートーク

塩川は尾道白樺美術館が閉館後、同施設を活用した大学美術館の設置にも尽力し、初代館長を務めた。これは2年に1回開催される大学美術館での「教員展」のギャラリートークの様子。

2025年10月20日記

以上